

徳井神社社報

令和六年六月

箒の宮

ほうき



子安いぬ像

安産のシンボル「いぬ」の母子像には神功皇后が懐妊中、小石を腰に挟んで征西を果たしたという故事に因み、願いごとを記した石が供えられます。

祈る姿

宮司 城戸 直和

終日境内地内で過ごすようになって三年が過ぎました。外の務めと掛け持ちの時期は日中の神社の様子を十分に把握できなかったのですが、最近様々な発見があることに驚いています。これまでしっかりと観察して来なかったのかと言われれば返す言葉もありませんが、今まで気付かなかったことや、改めて認識することには喜びも生じます。それが植生であったり、判読が困難な古い石造物の文字であったり、また来社されたお方とのご縁であったりと多彩ですが、地域の面白さを今更ながらに感じています。気になるひとつが参拝者の祈りの御姿です。何も人様の拝礼の様子を眺めているわけではありません。むしろ境内地での作業の最中ではできるだけ拝する姿を目に入れぬようにしているつもりです。しかし、目に入るものは仕方ありません。勢いよく鈴緒を振られる方、声を出して祈願される方、また長い時間頭を垂れておられる方には、身体に異変は無かろうかなどとつい心配もしてしまいます。様々な祈りの様相ですが、清々

しいものを拝見したと思われることもあります。早朝は五時台から日々の日課にされている方々が参拝に来られますが、七時台になると入れ替わりにおいでになります。そのような時間帯に通勤通学の途次でありましょうか、男女を問わず、社域に入ることなく鳥居下階段前の正中に起立し、深々と頭を下げ寸刻お参りされる御方が幾人も居られるのです。只、御神前を拝する姿と云えばそれまでですが、殊に若い方々の丁寧な拝礼は気持ちの良いものです。また戦禍の中にある国々も多く在中で、平和な邦国で過ごせる感謝を神様に呈する姿は尊いものです。御神縁でありましょうが老若男女、幼子も含めて神拝する場に居合わせたありがたさを小職自身も痛感します。

今年古希の齢を重ねる身ですが、周りの方々からは「まだまだ若い。これからだ」などと励まされていたできます。しかし、少しずつ体力が減じているのは否めません。あと幾年ご奉仕させていただけるとのこと、つい考えてしまいます。世情、政も含めて芳しい話題は少ないようですが、御神助をいただいて、少しでも宜しいかたちでお社を次代に繋いで行きたいものと念ずるばかりです。

祭事暦

令和六年

六月(水無月)

三十日(日) 夏越の大祓

(茅の輪神事) 午前十一時

当日お出でになれない御方やご家族分の人形代は社頭に置いておきます。不明な点は社務所へお問合せください。

十月(神無月)

十二日(土) 宵宮祭

十三日(日) 例祭

本神輿、子供神輿共に巡幸予定 ※詳細は掲示板などで報知します

十一月(霜月)

二十三日(土) 新嘗祭

当月中毎日、七五三成長祈願祭

十二月(師走)

三十一日(火) 師走の大祓

午後四時 除夜祭

各月第一日曜日

月次祭並びに

御日供講員安全祈願祭を齎行

ホームページを開設しました
【公式 徳井神社ホームページ】を
検索してください。
インスタグラムも
フォローしてください。
さい。



「箒の宮 徳井神社」いま、むかし



《気になる一枚の写真》

徳井神社に奉職した三十年前、土地の古老に地域の来し方をよく聞かせてもらいました。往々にして仰ることは、昭和から平成にかけての三大災害のことでした。古い順に申せば、昭和十三年の阪神大水害、石屋川の堤防決壊により地区東部の被害は甚大であったとのこと。二十年五、六月の空襲では家屋二十余戸を残すのみで全焼し、約三千五百名の罹災者は成徳小学校に避難したと伝えられます。そして平成七年の阪神淡路大震災です。これらの災害の故に徳井地区には殆ど史資料らしきものは残っていないとのことでしたが、それでも幾何

かのものは残されているようです。昭和五十三年に徳井財産区管理会にて刊行された『徳井の今と昔』という冊子には気になる写真が何枚か掲載されています。今回は其の中の「出征軍人の壮行会」というタイトルの付いた一枚を紹介します。キャプションには「徳井神社で。聖戦の名のもとに次々と青壮年が戦場にかり立てられていった」とあります。拝殿前に立つ二人の男性が見送りの人々に壮行される様子が写されているものです。

地域の皆さんが日々お参りされている境内で八十年ばかり前には出征する方々を激励しながら送らねばならなかった証の一枚です。家族や知人、また送られる側の思いは如何ばかりでありましたでしょうか。他国とは云え戦禍の報が途絶えることのない現況を鑑みると、人間の業の深さと浅はかさを痛感します。

この写真に関しては、日付も見送られるお二人の氏名も記されてはいません。お二人が無事に戻られたかどうか不明です。また同様に壮行され出征された徳井地区の方々も沢山居られたことと思います。悲しい出来事ですが後世に残しておかねばならないことだと思えます。ご存じのことがありましたら徳井史料館(徳井神社内)までお知らせください。

「社務日誌」より

令和六年上半期

(五年十二月二十八日(木))

(株)高橋組(高橋勝則社長)による境内各所清掃奉仕



一月

元旦(月) 歳旦祭

三日(水) 元始祭

元旦から三日まで特設アント設置

十五日(月) 御火焚祭

総代、敬婦人会員によつて神札・注連縄等のお焚上げを行いました。



二月

三日(土) 節分祭

祭典終了後、ご参拝の皆様には福豆を授与いたしました。

十一日(日) 紀元祭

十二日(月) 初午祭

寒の最中ですが稲荷社前で祭儀を斎行、ご参列の皆様には福餅をお持ち帰りいただきました。祭典終了後、ご参拝の皆様には福餅を授与いたしました。

十八日(日) 祈年祭

二十三日(金) 天長祭

四月

十四(日) 神功皇后祭

(八幡社例祭)

毎年、ご命日の十七日に近い日曜日を祭日と定め斎行致します。御神前には故事に因み、鮎をお供えいたします。

十九日(金) 灘オヤジラボ研修会
社務所にて「徳井地区の百年」をテーマに講話を実施しました。



礼祭献饌御芳名

(順不同、敬称略)

【歳旦祭】

堂内 克孝	大和屋酒店
廣田喜久子	すし魚光
大河原光子	犬伏 教夫
セブンイレブン	小園 章二
土井 道夫	宮原 正男
老田 達雄	(株)志満工務店
細井 正子	(株)ナサホーム
造園六峰園	志井香代子
(株)本村運送	山内 鉄也
石部 達基	みずらぼ六甲店
どとうち鍼灸院	成徳少年野球部
金澤 智章	北畑 雅敏
山下 哲男	坂田 保美
高島 義昭	松田 守人
下浦 俊夫	廣川 健二
船越 直	東田木材(株)
木下 進弘	
沢の鶴(株)	
福德長酒類(株)	
菊正宗酒造(株)	
扇港社クリーニング(株)	
まえだファミリー歯科	
堂内 克孝	米田タミ子
大河原光子	啓席浩二郎
北浜みどり	中西 陽子
盛山 正仁	高尾 幸裕
山村 裕史	浅倉 貞美

【御火焚祭】

堂内 克孝 松田 守人
 どとうち鍼灸院 井坂 信彦

【節分祭】

堂内 克孝 高島 義昭
 大河原光子 北浜みどり
 立花 梅子 どうとうち鍼灸院
 老田 達雄 中來田英治
 古賀 宏 田中由美子
 松田 守人 山下 哲男

【初午祭】

堂内 克孝 老田 達雄
 大河原光子 諫山 大介
 北浜みどり 木下 進弘
 高島 義昭 松田 守人
 中來田英治 田中由美子
 森本 正広

【紀元祭】

堂内 克孝 北畑 雅敏
 大河原光子 松田 守人

【祈年祭】

堂内 克孝 三尾 修一
 大河原光子 古賀 宏
 石井健一郎 松田 守人
 高島 義昭 中西 雅孝
 東田 全弘

【天長祭】

堂内 克孝 高島 義昭
 大河原光子 木下 進弘
 北畑 雅俊

【神功皇后祭】

堂内 克孝 廣田喜久子
 大河原光子 松田 守人
 高島 義昭 古賀 宏
 どうとうち鍼灸院 北畑 雅敏

【神輿巡幸用まつり歌扇子 百本奉納】

大河原 光子 殿

コロナ禍の蔓延以来、職員のみでの祭儀が続きましたが、昨年よりようやくご参列も増えて参りました。
 年明けより度重なるご参列、ご奉奠に感謝いたします。

「徳井神社あれこれ」

【狛犬】

昨年末、若い人々たちによる阪神淡路大震災を語り伝える活動(あすパ・ユース震災語り部隊)で当社も諸所巡検してもらいました。その折の学生さん達の反応は素直で、新旧組み合わせた石造物にも感心してもらいました。その一つが柱を残し笠や貫を新調して組み合わせてもらった鳥居ですが、さらに一つ、ご紹介するのが一対の狛犬です。狗の台石に平成八年九月一日と記してあるので、「震災後に作られたものですね」と仰る。確かに倒壊して狗の修復は叶わなかったのですが、台座は設置当時

のものをそのまま据えています。「台座裏の年紀を見てください。嘉永四年とあります。嘉永四年(一八五二)と云えば、ペリーが黒船に乗ってやってくる二年前です」と申せば学生さん方には反応が良いような気がします。頭の中で七十余年前の徳井神社の様相を想像してもらえたかもしれません。鳥居にしても狛犬にしても、徳井の住民が連綿と触れ伝えてきたもの。これより先も大切に維持し伝えてもらいたいと願うばかりです。



「御日供講」協賛のお願い

徳井の地では藩政期より昭和三十年代まで、地域在住の人々によって相互協力の許、「オトウ（御頭）」と呼ばれる神社護持組織がありました。いつの頃からか途絶え失われてしまいました。

「氏神様は氏子で守る」という気風を何とか戻せぬものかと考え、平成十七年より「御日供講」という奉賛の会を立ち上げました。講員の誕生月の月次祭にはご案内を差し上げますので、ご参列いただき家内安全の御祈願をも併せてお受けください。

「御日供」は日々神様に差し上げる御食事のことです。是非ご家族皆様で協賛ください。

ご案内、申込用紙は社頭に置いてありますが、ご連絡いただければお送りいたします。
《御日供講協賛金》年間
(個人) 三千元
(法人・特別講員) 一口一万円

【各種問い合わせは社務所まで】
徳井神社社務所
神戸市灘区大和町四丁目五番五号
TEL 〇七八・八一・三九七五

「授与品」紹介

授与所には様々なお問い合わせがありますが、先日若い男性が御守を求めに来られました。「フーテンの寅さんが下げているような御守が欲しい」とのこと。首に下げる様式のもの確認しました。ご紹介した二種です。

①「木札御守」
当社では神輿渡御の際、供奉の方々には必ず身に付けてもらいます。(初穂料 五百円)



②「御守(紐付き)」
大小ある御守の小振りのもの。当社では七五三詣でのお子さん方にはこの首下げ式の御守を授与します。(初穂料 七百元)



ご祈祷のご案内

☆安産祈願

子宝に恵まれたことを神様に感謝し、無事出産できるように祈願いたします。往昔、妊娠五か月目の戌(いぬ)の日に着帯の御祝をします。

☆初宮詣・健康成長祈願

お子様が無事に誕生したことを神前に奉告し、神様の御加護のもと、健やかに成長されるように祈願します。

☆交通安全祈願

お車の購入時に限らず、誕生日や免許取得日などご自身で「車禍の日」を定めてください。交通安全はもとより、健康で無事故・無違反の快適な運転を祈念します。

☆厄除

厄年は災難が起り易く、慎むべき年であるとされています。また社会において大切な役目・役割を担う「役」の年回りでもあります。神様の御加護によりご本人とご家族のご多幸とご活躍を祈念申し上げます。

☆七五三健康成長祈願

三歳の男児、五歳の男児、七歳の女児が氏神様にお参りし、これまでの無事を神様に感謝し、これよりの健やかな成長を祈ります。

七五三詣のお参りについて

十一月中は毎日ご奉仕させて頂きます。十一月以外の月日をご希望の御方は社務所へお問い合わせください。

当社は従前、一族様ごとの御祈願をいたしておりますが、土日祝日のご希望時間帯が重なることがあります。できるだけ日時をご予約いただければ幸いです。
三歳 髪置(かみおき)のお祝い
令和四年生まれの男女児
五歳 袴着(はかまぎ)のお祝い
令和二年生まれの男児
七歳 帯解(おびとき)のお祝い
平成三十年生まれの女児
十三詣 平成二十四年生まれの男女
(年齢は数え年です)

《宮守独言》

日々時間がゆっくり流れてゆきます。専任の神職になって何によらず所作が丁寧になった気がします。加齢の故、動作が緩慢になっていることもあるのですが、時間の余裕で二足、三足の草鞋を履いていた青壮年期には見えなかったものを見出すこともあります。江戸末期の儒学者、佐藤一斎の箴言「老いて学べば死して朽ちず」と思い、過ごしています。